

## 無防備都市 (1945)

ROMA, CITTA, APERTA  
ROME, OPEN CITY [米]

メディア 映画

ジャンル ドラマ 戦争

製作国 イタリア

色彩 B&amp;W

時間 106分

初公開日 1950/11/07

公開情報 イタリアフィルム=松竹洋画部

## 【解説】

今みても大変衝撃的な、ロッセリーニによるレジスタンス劇である。42年のローマ。国民解放会議の指導者マンフレディは名を変え、市井に潜っていたが、めざといナチ高官に恋人の女優マリーナと写った写真から正体を探られ、同志の印刷工フランチェスコの下宿に逃げ込む。彼は隣室の戦争未亡人ピーナ（マニャーニ）との結婚を控えていた。子連れで再婚するピーナは期待と不安でいっぱい。マンフレディは闘争資金調達に回らねばならなかったが、身動きが取れず、神父ドン・ピエトロ（ファブリッツィ）に連絡係を頼み、金の入金に成功。そして、ピーナたちの結婚式の日、ナチ・ゲシュタポに襲われたマンフレディは逃げるが、フランチェスコらは逮捕され、その護送車を追ったピーナは撃ち殺される。ここまでが第一部。そして二部。護送車はパルチザン同志の襲撃に遭い、フランチェスコは解放され、マンフレディと合流してマリーナのアパートを頼るが、彼女はナチの婦人隊員に金と物資、加えて麻薬で縛られ（同性愛を暗示する場面があるが、マリーナを演じたM・ミーキにそれだけの役柄をこなす力量がなく、この辺が空転して作品を損ねている）、彼らは訣別。神父の手引きで更に隠れ家に逃れる途中、マリーナの裏切りでマンフレディは神父と共にナチに拘束され、神父の目で酷い拷問にあうが、遂に一切口を割らずに絶命。“共産シンパ”となじられた神父も、“悪魔と闘うのに信仰は関係ない”と吐き棄て、刑場の露と消えるのである。このラスト、金網越しに少年たちに見守られながらの処刑シーンは現代のゴルゴダの丘を想わせる素晴らしきで、絶望してその場を去る少年たちの肩を落とした姿が忘れられない。原作はS・アミディでフェリーニと共同で脚本も書いている。

## 【クレジット】

|    |                 |                        |               |
|----|-----------------|------------------------|---------------|
| 監督 | ロベルト・ロッセリーニ     | Roberto Rossellini     |               |
| 原作 | セルジオ・アミディ       | Sergio Amidei          |               |
| 脚本 | セルジオ・アミディ       | Sergio Amidei          |               |
|    | フェデリコ・フェリーニ     | Federico Fellini       |               |
| 撮影 | ウバルド・アラータ       | Ubaldo Arata           |               |
| 編集 | エラルド・ダ・ローマ      | Eraldo Da Roma         |               |
| 音楽 | レンツォ・ロッセリーニ     | Renzo Rossellini       |               |
| 出演 | アルド・ファブリッツィ     | Aldo Fabrizi           | ドン・ピエトロ・ペレグリニ |
|    | アンナ・マニャーニ       | Anna Magnani           | ピーナ           |
|    | マルチェロ・パリエーロ     | Marcello Pagliero      | ジョルジオ・マンフレディ  |
|    | マリア・ミーキ         | Maria Michi            | マリーナ・マリー      |
|    | フランチェスコ・グランジャック | Francesco Grandjacquet | フランチェスコ       |
|    | ハリー・フェイス        | Harry Feist            | ベルグマン         |
|    | ジョヴァンナ・ガレットティ   | Giovanna Galletti      | イングリッド        |

